

- 1 教育事業名 「いきいき自然体験キャンプ」～自然にふれ、人とかわり、新しい自分に出会う旅～
- 2 ね ら い 心因性の不登校児童生徒に対して、渡嘉敷島の大自然の中で日常と離れ、普段とは異なる人々と生活・交流し、安心できる環境の中で自然体験・生活体験・交流体験などを行うことで、心身を解放させる。そして自分の新しい一面に出会うことで、日常生活における前進するきっかけとなることを期待する。
- 3 期 日 平成29年9月26日(火)～9月29日(金) 3泊4日
*台風18号のため予備日程での実施となった。
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 県内適応指導教室等に通級する児童生徒(小・中・高)50名程度
児童生徒の関係者(適応指導教室職員・保護者等) 20名程度
- 6 参加人数 74名
- 7 参加者内訳 小学生9名・中学生36名・適応指導教室引率職員25名 (男性32名、女性38名)
- 8 講 師 ・照屋寛信氏(手作り遊び工房ふぁーかんだー) クラフト・野外活動指導
・米田英明氏(琉球新報社通信員) 平和学習指導
・森有紀子氏・池松来氏(スノーケリング公認指導員) スノーケリング指導

9 実施プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
26日(火)			とまりん集合・受付	泊港出港フェリー		昼食(持ち弁)・休憩・スタッフ打ち合わせ	オープニングふれあいレクリエーション	テント設営	ゆとりの時間	火おこし	夕食(野外炊事)カレー		ゆとりの時間	ふりかえり	シャワー	就寝(テント)
27日(水)	起床朝のリラックスタイム	朝食(軽食)	海洋研修・昼食(弁当)							ゆとりの時間	夕食(野外炊事)ロコモコ		灯りの時間	ふりかえり	シャワー	就寝(テント)
28日(木)	起床朝のリラックスタイム	朝食(軽食)・テント撤収	大型カヌーでハナリ島へ移動(弁当)						本館へ移動	ゆとりの時間	入所OR	夕食(食堂)	星空の時間	ふりかえり	入浴	就寝(本館)
29日(金)	起床朝のつどい	朝食(食堂)清掃	平和学習		昼食(食堂)	ふりかえり	エンディングアンケート	移動	渡嘉敷港出港フェリー	泊港着	各教室で解散					

10 事業の様子



自然体験キャンプスタート



ふれあいレクリエーション



テント設営



夕食のカレー作り



海洋研修のオープンカヤック



大型カヌーでハナリ島へ



無人島の岩陰でアカナー作り



4日目みんなへの気持ちを書こう 振り返り みんなにお礼を書こう



11 エピソード

(1) アンケート・参加者の感想

- ・みんなで協力でき、自信が持てた。
- ・キャンプで規則正しい生活をする事によって毎朝少しずつ早く起きられるよう、意識して行動することができた。
- ・大型カヌーでハナレ島に最後まで行けるか不安だったけど、自信を持って漕ぐことができた。
- ・とても貴重な話を聞いた。平和の大切さに気づいたからよかった。知らないことを学べて平和がこんなに大事だとわかった。
- ・ちょっと恥ずかしいけど他の人と仲を深めることができた。
- ・去年のことを思い出しながらテントを立てることができた。
- ・号令、火おこし、周囲の人とおしゃべりができた。
- ・これからは一人でいろんなことができるようになりたいと思った。
- ・練習すれば意外と料理ができるかもしれない。
- ・学校で自分は目立たなくておとなしいけどキャンプをして自然の中で自信を持って動くことができ、うれしかった。

(2) 沖縄県適応指導教室連絡協議会における担任の先生からの報告

事業終了後の沖縄県適応指導教室連絡協議会にて、「いきいきキャンプをきっかけに学校にチャレンジ登校ができるようになった」「消極的だった生徒がキャンプの後から諸活動に意欲的に参加するようになった」「友達にも自ら声をかけたり、誘ったりする姿が見られるようになった」「生活面でもキャンプで規則正しい生活をする事で少しずつ早く起きられるよう意識できた」「初めて親と離れて生活し、親への対応が柔らかくなった」等の生徒の良い変化が見られたと担任の先生から報告があった。また「今まで自分に自信がなかったが、キャンプに参加することができて自信になった。」という生徒の言葉があった」なども報告があった。

12 担当者所見

(1) 成果

「学校に通えるようになった(チャレンジ登校含む)」や「運動会に参加できた」等の通学への良い変化の報告があった。また「このキャンプで積極的に他の人に話しかけたい」との目標を持ち、参加した生徒は、実際に自分から意識して班員に声をかけ、炊飯時には手順を考えて行動していた。キャンプ終了後は表情が明るくなり、自信が持てるようになったと生徒の変化の報告や「無人島に到着した直後の笑顔が達成感に満ちあふれていてこれまでに見たことのない笑顔だった。そのときの達成感がこの生徒の自信につながったのでないか」と考えた担任もいた。

これらの報告を受けて、非日常的な3泊4日のキャンプが他の児童生徒と協力し合う気持ちを生み、困難な状況お互いが知恵を出し、工夫を引き出し、各プログラムをやり遂げたことが、児童生徒の成長につながったと考える。

(2) 課題

- ・台風襲来の多い時期に実施する事業なので、あらかじめ予備日程を含め、講師やボランティアの調整及び使用施設を確保することが必要である。